

## JICA青年招へい事業

7月1日(金)から3日間、アフリカ各国から22人が島内を訪れました。

これは、国際協力事業団の青年招へい事業の二環で、アフリカ諸国で医療方面に従事する方々が日本の医療機関を訪れ公衆衛生の研修を行うものです。

一行は6月27日から新潟で県庁などを訪問したあと、ホストファミリーとの交流をとおして佐渡の生活や文化を知るため来島しました。

加茂小学校を訪問し子供たちと佐渡おけさを踊ったり、じゃんけんゲームをして楽しく交流を行いました。その後はホームステイ受け入れ先の家族が集まり、



言葉は通じなくとも、身振り手振りで心を通わせていました。

最終日はさよならパーティが開催され、鬼太鼓やアフリカの芸能が披露されました。

訪れた方からは、佐渡の人は皆さん親切で楽しかったという感想が聞かれました。

佐渡とアフリカ、遠く離れた世界に住む人々が互いの文化を介して交流をもつ今回の試みは生活・風土・宗教・言語などは違ついても、心は近いと感じた3日間となりました。

## グローバル・ユース・エクスチェンジ2005

外務省が行っている世界各国の青年招へい事業の二環で、28か国、30人が7月15日から17日に

佐渡を訪れました。

世界各国の大学生や学者、ジャーナリスト、外交官などが、世界平和にかかわる私たちの役割を討論するため、朱鷺メッセを会場に実施される事前研修として、日本の生活や文化を知ってもらつたため東京、京都、そして佐渡を訪れ島内観光や市民交流を楽しみました。

佐渡金山など名所旧跡を回り、21軒のホストファミリー宅に宿泊してプレゼント交換や家族が準備した料理に舌鼓をうち親交を深めました。

最終日は大崎活性化センターを会場に「そはの会」を開催してホームステイ先の家族と交流が行われました。手打ちそばのほかにもたくさん料理が並んで



だテーブルでは温かく迎えてくれた家族に感謝したり、それぞれのホームステイ先の家族参加メンバーを紹介する姿が見受けられました。

また、舞台では文弥人形芝居ちよぼくり、空手演武などが行われ、参加メンバーも特別出演するなどして場を盛り上げていました。

## 上越佐渡海峡横断会「水夢2005」大成功

今年1月に14市町村が合併をした新生「上越市」をアピールする目的で、上越市の水泳愛好グループが、佐渡島に向けて水泳で往復するという計画をたて7月16日午前10時に五智海岸を出発しました。天候にめぐま



れて17日、午前10時に小木港に到着しました。同日、小木港では「小木旅館民宿まつり」が開かれており、にぎやかな「岬組」の中学生による太鼓演奏で迎えられて、高野市長の歓迎のあい